

1. 調査目的等

中学校全学年・義務教育学校(7～9年)の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

2. 学校ごとの指標

全学年の前年度偏差値を、各教科で1ポイント以上上げる。

3. 指標にむけての取組

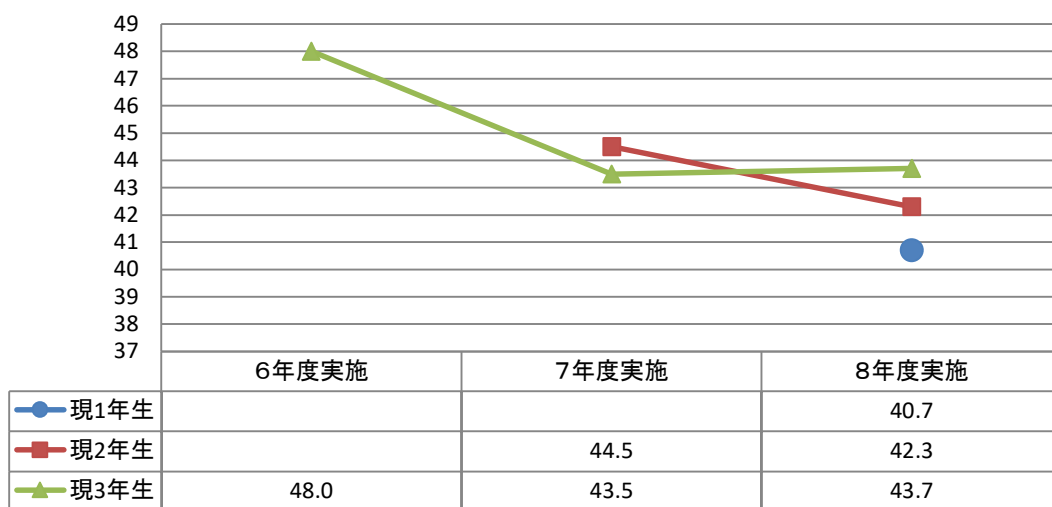
定期考査前後のチャレンジタイム・フォローアップタイムの実施
朝学習および定期考査前の放課後学習における補充学習の実施
授業や総合的な学習の時間、特別活動等で振り返りの時間の確保

4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
本校(A)	45.7	45.6	46.0	43.6	42.2
嘉麻市(B)	46.0	45.5	45.8	45.8	45.1
(A)－(B)	-0.3	0.1	0.2	-2.2	-2.9
標準偏差値との差 (A)－(50)	-4.3	-4.4	-4	-6.4	-7.8

各学年の推移



5. 各学校における分析

全教科を通じて、本校生徒は下記の①-④の課題がある。

- ①読解力が著しく低い。
- ②各教科・各分野の基礎知識が定着していない。
- ③基礎基本が未定着であるために、発展・応用問題に挑めない。
- ④グラフの読み取りや複数のデータを総合的に判断することができない。

6. 各学校における今後の取組

- ①学習内容の「要点」を短くまとめ、ペアやグループで説明する時間を設けることで読解力の向上を図る。
- ②小テストや演習問題(タブドリが活用可能な教科はタブドリを活用)等を短いスパンで行う。また、加配がついている教科については、複数での指導や分割授業などの指導方法を行い、生徒1人1人にあったきめ細やかな指導を行う。これらの取組によって基礎基本の定着を図る。
- ③その授業で学んだ基礎的知識・技能を用いて解答する応用問題に取り組ませ、発展・応用問題に取り組める力を身に付けさせる。
- ④複数のデータやグラフなどを用いて、自己の考えをまとめ、説明する時間の設定を行うことで、複数のデータを総合的に判断する能力を培う。

7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 分かる授業づくりのために、単元テスト等によるより短いスパンでの子ども達の状況を把握し、個に応じた指導を充実させることで、授業改善を図っていく。
- 子どもの思考活動の充実を図るために、一単位時間の授業の流れのモデルを基にした授業づくりやICT機器を効果的に活用した授業づくりの推進に努める。
- 家庭学習の習慣化を推進するために、「家庭学習のすすめ」等を活用した効果的な家庭学習の設定について改善を図る。
- 上記の3点について、嘉麻市学力検証委員会や主幹教諭研修会等において各校の取組を交流することで、各校における確実な実施を図るとともに、好事例の紹介や組織的な取組の在り方についての指導助言を通して、充実を図っていく。